

株主のみなさまへ

TOWA REPORT

第58期 平成25年4月1日～平成25年9月30日
第2四半期事業のご報告

CONTENTS

ごあいさつ	1
TOWA NEWS DIGEST	2
業績の概要	3
東和薬品の製品工夫	5
連結財務諸表(要約)	7
中期経営計画主要課題推進レポート	9
会社の概況と株式の状況	10



東和薬品株式会社



代表取締役社長
吉田 逸郎

ジェネリック医薬品の普及拡大への 追い風が吹く中、当期の業績も順調に推移。 営業体制・安定供給体制の整備が進んでいます。

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当社の第58期第2四半期の事業のご報告(平成25年4月1日から平成25年9月30日)をお手元にお届けいたします。

当第2四半期の業績につきましては、今年度は診療報酬改定もなく、ジェネリック医薬品の使用促進環境に大きな変化はありませんでしたが、4月に厚生労働省が発表した「後発医薬品のさらなる使用促進のためのロードマップ」で“平成30年3月末までに60%以上”という新たな数量シェア目標が打ち出されるなど、引き続きフォローの風が吹いている状況にあります。このような状況下、当社の第2四半期の業績も順調に推移いたしました。

一方、ジェネリック医薬品の存在がますます大きくなるにつれ、原薬などの安定供給の問

題が指摘されるようになってきております。当社といたしましては、これらの問題の一つひとつ真摯に取り組むことで、さらなる信頼性の向上につなげていきたいと考えております。

第2四半期末の配当金につきましては、連結当期純利益も数年来順調に推移していることを踏まえ、株主の皆様のご支援にお応えするため、当初計画どおり37.50円(配当性向31.6%)と致しました。

内部留保金につきましては、中長期的視点からの経営体質の強化、企業価値の増大を図るために、研究開発力の充実、生産能力向上・効率化のための設備投資、営業体制の拡充・強化などに充てさせていただきたいと存じます。株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成25年12月

●● 業界の動向

2年に一度、4月に打ち出される政府の使用促進策により、直後にジェネリック医薬品の市場規模が拡大し、その時期以外には大きな市場環境の変化はないというのが、これまでの通例でした。しかし最近では、政府の使用促進策は今後も継続されるという共通認識が医療関係者の中にあり、次の使用促進策に向け、病院や保険薬局でジェネリック医薬品に対する、これまでにない前向きな雰囲気を感じています。

薬価基準追補品収載 7成分15品目を新発売

パーキンソン病治療薬である「プラミベキソール製剤」では初めてとなるRACTAB技術を用いたOD錠(口腔内崩壊錠)を発売。他にも、骨粗鬆症治療薬の「リセドロン製剤」には、服用上の注意を表示し飲み忘れ防止シールを付けるなど、飲みやすさや扱いやすさに工夫をした製品を発売。(6月21日)



飲み忘れ防止シール

TOWA NEWS DIGEST



この半期の主な取り組みと
新製品をご紹介します。

学会・セミナー共催

第26回インターフェックス(7月12日)で「ジェネリック医薬品メーカーの成長戦略」をテーマに講演、日本ジェネリック医薬品学会第7回学術大会(7月6日)・第46回日本薬剤師会学術大会(9月22

日)でランチョンセミナー共催などを行いました。



京都分析科学センターを開設しました

ジェネリック医薬品の製造販売承認申請に必要な試験や、医療関係者や患者さんが必要とされる情報を提供するための各種評価を行う研究施設として、京都リサーチパーク内に開設しました。ジェネリック医

薬品の更なる普及に向け、付加価値の高いジェネリック医薬品の研究と信頼・安心できる最先端の開発現場を医療関係者にご覧いただきたいという思いから、当センターには「魅せる研究所」として見学コース

を設けています。(4月16日)



「なぜ?なに?ジェネリック医薬品ガイドブック」の作成

「どうして今、ジェネリックなの?」「ジェネリックってどんなお薬?」「品質や効き目は?」など、名前は知っているが詳しいことまでは分からないという一般のみなさんや患者さんの不安や疑問にお答

えする形でまとめました。このガイドブックは、医療機関に設置させていただくほか、各種イベントや当社ホームページでも配布・公開しています。多くの方に読んでいただき、安心してジェネリック医薬品を

お使いいただけるよう、活動
をしています。(5月7日)



一般誌への広告出稿

当社のRACTAB技術を用いて飲みやすさを“育てた”水なしでも飲める薬を、多くの方々に認知していただくため広告を出稿しました。駅売店でも販売されている東海道・山陽新幹線の車内誌「WEDGE」(8,9,10号)、JAL機内誌「SKYWARD」(9,10号)、ANA機内誌「翼の王国」(9,10号)に掲載をしています。(8月20日~)



RACTAB技術を
分かりやすくご紹介しています。

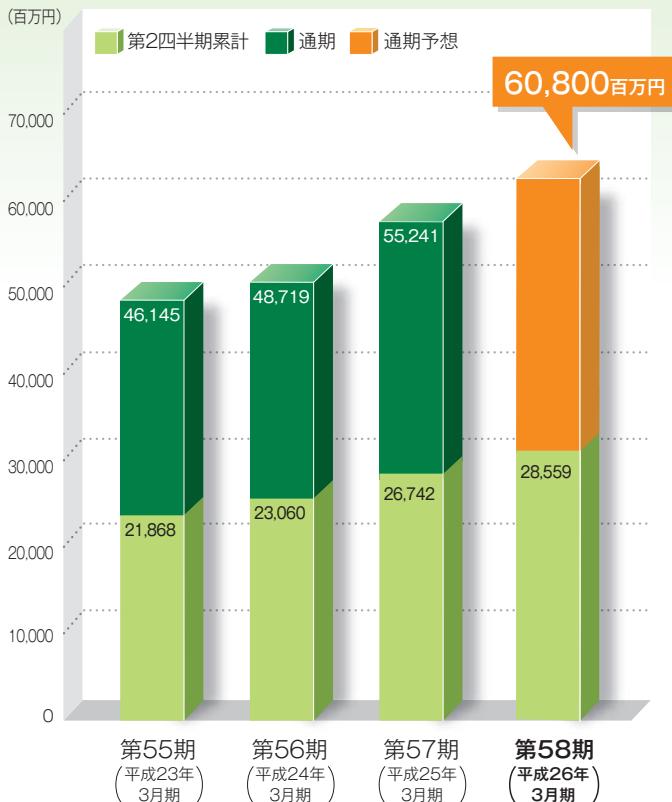
営業所の新設・移転

岐阜(8月1日)、長野(9月2日)を新規開設して合計57営業所体制となりました。また、滋賀(5月13日)を移転しました。

業績の概要

業績ハイライト(連結)

売上高



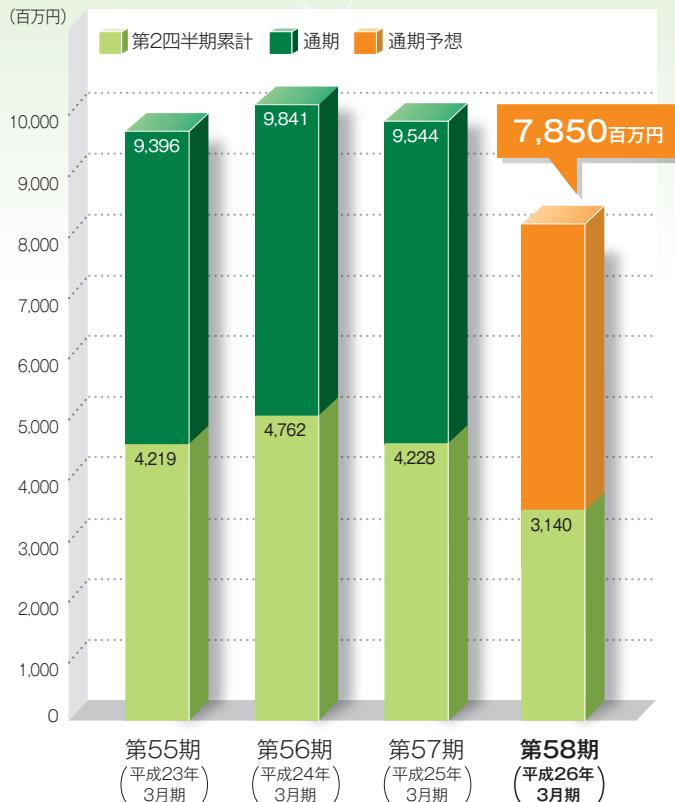
POINT

1

売上高

当第2四半期の売上高は、28,559百万円(前年同期比6.8%増)となり、ほぼ業績予想(28,400百万円)通り、順調に進捗いたしました。アムロジピンやランソプラゾールなど、製剤付加価値の高い製品を中心に売上が順調に推移いたしました。

経常利益



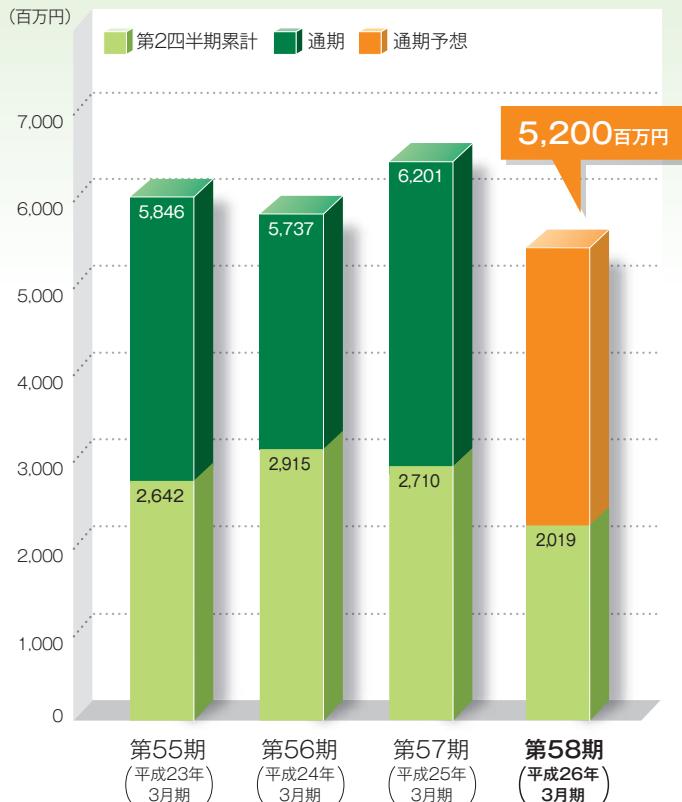
POINT

2

経常利益・四半期純利益

当第2四半期の経常利益は3,140百万円(前年同期比25.7%減)となりました。山形工場の減価償却費の増加などにより、原価率が上昇しました。また付加価値製剤などを含む開発品目の増加に伴う研究開発費の増加などにより、販売費及び一般管理費が増加いたしました。当第2四半期

四半期純利益



の連結業績予想(2,600百万円)に対しては、計画を上回るペースで推移いたしました。また四半期純利益は2,019百万円(前年同期比25.5%減)となり、当第2四半期の連結業績予想(1,750百万円)を上回っております。

1株当たり四半期純利益



通期の見通し 当第2四半期の業績は、平成25年5月14日に公表した計画を、売上、利益とも若干上回るペースで推移しておりますが、売上は計画から微増にとどまっております。通期でも、ほぼ当初計画通り進捗する見込みです。通期見通しは、公表計画通り、売上高60,800百万円、経常利益7,850百万円、当期純利益5,200百万円と見込んでおります。

すべての人に笑顔を届ける

東和薬品の 製品工夫



患者さんの毎日の服用や医療関係者の調剤を考えると、使用するみなさんの負担を減らすというのは、薬にとってはとても大切なこと。

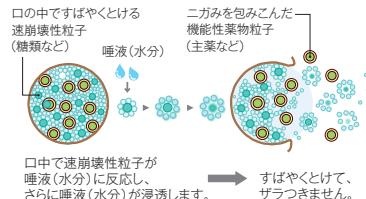
東和薬品は、「飲みやすさ」や「扱いやすさ」など独自の工夫を加えた製品を“育てて”います。



患者さんにやさしい

「RACTAB技術」による工夫

当社独自のRACTAB技術で開発した、水なしでも飲めるOD錠（口腔内崩壊錠）。お子さまからお年寄りまで、幅広い層の患者さんに飲みやすいよう工夫した設計デザインで、グッドデザイン賞を受賞しました。今後も多くの薬剤に活用していきます。



RACTAB技術を用いた当社OD錠の崩壊イメージ。

患者さん・医療関係者にやさしい

取り扱いやすさの工夫

世界初、割線を避けて製品名を印刷したOD錠の開発を行いました。これにより分割後も判読できるため、識別性が高まり、患者さんの飲み違いの防止や医療関係者の薬剤特定に貢献できることを期待しています。



分割後も製剤名の判読が可能です。

患者さんの負担を軽く 飲みやすさに配慮した工夫

飲みやすさにおいて、錠剤が望まれているという結果から、カプセル剤しかなかった薬剤を錠剤に変更して開発を行いました。また、含量規格を追加し、1回の服用数を減らすことで、患者さんの負担を低減する効果を期待しています。



例えば、カプセル剤3つから錠剤1つへと、1回の服用数を少なく。

扱いやすさを大切に 包装にもさまざまな工夫

薬の効果を文字やイラストを使って、パッケージにわかりやすく表示しています。また医療関係者の識別性の向上と、患者さんやご家族・介護する方が確認しやすくするため、1錠ごとに切り離しても製品名と含量がわかるようにデザインしています。



薬効をイラストで。

1錠ごとでも識別性の高いデザイン。

12月に、10成分25品目の 発売を予定しています。

12月発売予定の新製品のうち、アジスロマイシン水和物とバラシクロピル塩酸塩の2成分は、ジェネリック医薬品として初めて承認を取得しました。

	販売名	薬効分類名	先発・代表薬剤
内 用 剤	アジスロマイシン錠250mg「トーフ」	15員環マクロライド系 抗生物質製剤	ジスロマック錠250mg
	アジスロマイシン錠500mg「トーフ」		《含量規格追加》 ジスロマック錠250mg
	アトルバスタチンOD錠5mg「トーフ」	HMG-CoA 還元酵素阻害剤	リビトール錠5mg
	アトルバスタチンOD錠10mg「トーフ」		リビトール錠10mg
	ゾルピデム酒石酸塩OD錠5mg「トーフ」	入眠剤	マイスリー錠5mg
	ゾルピデム酒石酸塩OD錠10mg「トーフ」		マイスリー錠10mg
	タクロリムス錠0.5mg「トーフ」	免疫抑制剤	プログラフカプセル0.5mg
	タクロリムス錠1mg「トーフ」		プログラフカプセル1mg
	タクロリムス錠1.5mg「トーフ」		《含量規格追加》 プログラフカプセル 0.5mg/1mg
	タクロリムス錠3mg「トーフ」		《含量規格追加》 プログラフカプセル 0.5mg/1mg
	タクロリムス錠5mg「トーフ」		プログラフカプセル5mg
	ドネベジル塩酸塩OD錠10mg「トーフ」	アルツハイマー型 認知症治療剤	アリセプトD錠10mg
	ドネベジル塩酸塩錠10mg「トーフ」		アリセプト錠10mg
	ドネベジル塩酸塩内服用10mg「トーフ」		アリセプト内服ゼリー10mg
	バラシクロピル錠500mg「トーフ」	抗ウイルス 化学療法剤	バルトレックス錠500
バラシクロピル顆粒50%「トーフ」	バルトレックス顆粒50%		
ビタバスタチンCa-OD錠1mg「トーフ」	HMG-CoA 還元酵素阻害剤	リバロOD錠1mg	
ビタバスタチンCa-OD錠2mg「トーフ」		リバロOD錠2mg	
ビタバスタチンCa錠1mg「トーフ」		リバロ錠1mg	
ビタバスタチンCa錠2mg「トーフ」		リバロ錠2mg	
ビタバスタチンCa錠4mg「トーフ」		リバロ錠4mg	
ヒドロクロロチアジドOD錠12.5mg「トーフ」	降圧利尿剤	—	
フェキソフェナジン塩酸塩DS6%「トーフ」	アレルギー性 疾患治療剤	アレグラ錠30mg アレグラOD錠/錠60mg	
ドセタキセル点滴静注20mg/1mL「トーフ」	タキソイド系 抗悪性腫瘍剤	ワンタキセル点滴静注 20mg/1mL	
ドセタキセル点滴静注80mg/4mL「トーフ」		ワンタキセル点滴静注 80mg/4mL	

連結財務諸表(要約)

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	前期 (平成25年 3月31日現在)	当第2四半期 (平成25年 9月30日現在)	増減
(資産の部)			
流動資産			
現金及び預金	3,485	2,650	△ 835
受取手形及び売掛金	17,217	16,654	△ 562
① 有価証券	3,000	1,000	△ 2,000
② たな卸資産	19,671	20,598	927
その他	3,764	3,516	△ 247
貸倒引当金	△ 89	△ 184	△ 95
流動資産合計	47,049	44,235	△ 2,813
固定資産			
建物及び構築物	21,271	20,849	△ 422
土地	6,694	7,249	555
③ 建設仮勘定	724	2,472	1,747
その他	9,307	9,637	330
有形固定資産合計	37,997	40,208	2,211
無形固定資産合計	768	798	29
投資有価証券	2,108	2,179	71
その他	1,870	941	△ 929
貸倒引当金	△ 88	△ 5	82
投資その他の資産合計	3,890	3,115	△ 775
固定資産合計	42,656	44,122	1,465
資産合計	89,705	88,358	△ 1,347

POINT
1

有価証券

1,000百万円と前期末に比較し2,000百万円減少しております。余剰資金を、リスクの極めて少ない譲渡性預金などにより一時的に運用しているものです。

POINT
2

たな卸資産

20,598百万円と前期末に比較し、927百万円増加いたしました。売上増加にともない、たな卸資産が増加しているものであり、適正在庫を維持しています。

POINT
3

建設仮勘定

建設仮勘定残高は2,472百万円と、前期末に比較し1,747百万円増加しています。大阪工場において、生産能力増強のため増改築工事を実施しております。

(単位:百万円)

科目	前期 (平成25年 3月31日現在)	当第2四半期 (平成25年 9月30日現在)	増減
(負債の部)			
流動負債			
支払手形及び買掛金	7,482	6,960	△ 522
未払法人税等	1,667	711	△ 955
その他	10,369	10,121	△ 247
流動負債合計	19,519	17,793	△ 1,725
固定負債			
長期借入金	12,908	12,083	△ 825
引当金	156	145	△ 11
その他	1,510	1,497	△ 12
固定負債合計	14,575	13,726	△ 849
負債合計	34,095	31,520	△ 2,574
(純資産の部)			
株主資本			
資本金	4,717	4,717	0
資本剰余金	7,870	7,870	0
利益剰余金	43,536	44,713	1,177
自己株式	△ 638	△ 639	△ 0
株主資本合計	55,485	56,662	1,177
その他有価証券評価差額金	124	174	49
純資産合計	55,610	56,837	1,227
負債純資産合計	89,705	88,358	△ 1,347

連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	前第2四半期 (平成24年4月1日から 平成24年9月30日まで)	当第2四半期 (平成25年4月1日から 平成25年9月30日まで)	増減
4 売上高	26,742	28,559	1,817
売上原価	12,747	14,478	1,731
売上総利益	13,995	14,080	85
5 販売費及び一般管理費	9,626	10,961	1,334
営業利益	4,368	3,119	△1,249
営業外収益	302	321	19
営業外費用	442	300	△142
経常利益	4,228	3,140	△1,088
特別利益	6	0	△6
特別損失	52	115	62
税金等調整前四半期純利益	4,182	3,025	△1,157
法人税等	1,471	1,005	△466
四半期純利益	2,710	2,019	△690

POINT
4

売上高 / 売上原価 / 売上総利益

当第2四半期の当社グループの売上高は、28,559百万円と前年同期比6.8%の増収となり、売上総利益も14,080百万円と前期比0.6%の増益となりました。山形工場稼働にともなう減価償却費の増加などにより、原価率が上昇し、売上総利益率は前年同期比3ポイント悪化いたしました。

POINT
5

販売費及び一般管理費

当第2四半期は、付加価値製剤などを含む開発品目の増加や研究開発費の増加などにより、販売費及び一般管理費が前年同期比13.9%増加いたしました。

6 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	前第2四半期 (平成24年4月1日から 平成24年9月30日まで)	当第2四半期 (平成25年4月1日から 平成25年9月30日まで)	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,495	2,650	△1,844
投資活動によるキャッシュ・フロー	△10,827	△3,889	6,938
財務活動によるキャッシュ・フロー	4,723	△715	△5,439
現金及び現金同等物に係る換算差額	△31	53	85
現金及び現金同等物の増減額	△1,640	△1,900	△260
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	65	65
現金及び現金同等物の期首残高	3,798	3,985	187
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,158	2,150	△7

POINT
6

連結キャッシュ・フロー計算書

現金及び現金同等物は、2,150百万円となりました。

「営業活動によるキャッシュ・フロー」

税金等調整前四半期純利益3,025百万円等の収入があり、2,650百万円の収入となりました。

「投資活動によるキャッシュ・フロー」

有形固定資産の取得による支出4,825百万円などがありましたが、譲渡性預金の満期などがあり、差引3,889百万円の支出となりました。

「財務活動によるキャッシュ・フロー」

長期借入金の返済による支出1,475百万円などがありましたが、長期借入による収入750百万円などがあり、715百万円の支出となりました。



(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

1

東和式 直販体制の 確立

営業拠点が代理店70カ所、営業所57カ所に。
さらなる売上向上、営業の効率化を目指して。

営業所新設は順調に進み、第2四半期末現在で57営業所となり、中期経営計画目標である55営業所に到達しました。

今後も代理店との共存共栄を図り、「東和式直販体制」を強化していきます。



2

製品総合力 No.1の 製品づくり

さらなる品質向上を目指し、
原薬、製剤の改良に着手しました。

将来にわたって使い続けられると思われる製品をリストアップし、さらなる品質向上に向けて改良が必要なものについて、原薬や製剤の改良に着手しました。製品総合力No.1の製品づくりについては、長期にわたって取り組むべき課題と認識しています。



3

安定 供給体制の 向上

山形工場も順調に稼働。
生産面、物流面ともに強固な体制が整っています。

生産面では山形第一工場から山形工場への製造移管が完了し、山形工場も順調に稼働しています。

物流面においては、東西の物流センターが順調に稼働しており、当社の安定供給体制の一翼を担っています。



会社の概況と株式の状況 (平成25年9月30日現在)

会社概要

社名 東和薬品株式会社
 本社 〒571-8580 大阪府門真市新橋町2-11
 TEL (06) 6900-9100 (代表)
 代表者 代表取締役社長 吉田 逸郎
 創業 昭和26年6月
 設立 昭和32年4月
 上場取引所 東京証券取引所市場第一部 (証券コード:4553)
 資本金 47億1,770万円
 事業内容 医療用医薬品の製造・販売
 自社製品 597品目 (平成25年6月現在)
 従業員数 1,691名 (平成25年10月1日現在)
 取引銀行 三菱東京UFJ銀行 門真支店
 みずほ銀行 守口支店
 三菱UFJ信託銀行 大阪支店
 日本政策投資銀行 関西支店
 研究所 中央研究所 製剤研究所 京都分析科学センター
 工場 大阪工場 岡山工場 山形工場 山形第一工場
 子会社 ジェイドルフ製薬株式会社 (医薬品の製造販売)
 大地化成株式会社 (医薬品原薬・中間体の研究開発及び製造)

株式の状況

発行可能株式総数 49,000,000株
 発行済株式総数 17,172,000株
 1単元の株式数 100株
 株主数 4,581名

大株主一覧 (上位10名)

株主名	持株数	持株比率
(株) 吉田事務所	4,700千株	27.65%
(有) 吉田興産	2,000	11.76
ゴールドマン・サックス・アンド・カンパニーレギュラーアカウント	568	3.34
吉田逸郎	485	2.85
東和薬品共栄会	426	2.50
ステートストリートバンクアンドトラスト カンパニー 505044	420	2.47
ピクテアンドシーヨーロッパエスエー	360	2.12
ジェービー モルガン チェース バンク 385078	349	2.05
日本トラスティ・サービス信託銀行 (株) (信託口)	334	1.96
ジェービー モルガン チェース バンク 380055	311	1.83

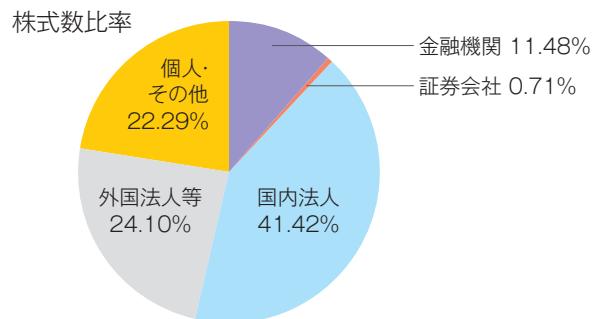
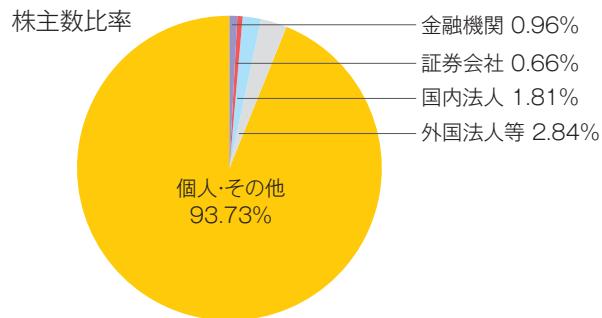
(注) 持株比率は、自己株式 (176,720株) を控除して計算しております。

取締役及び監査役

代表取締役社長	吉田 逸郎	取締役	前山 茂
専務取締役	大澤 孝	取締役	今野 和彦
常務取締役	播磨 武	取締役	沖本 和人
常務取締役	野口 豪	取締役	椋田 隆司
常務取締役	猪熊 俊	常勤監査役	栗原 一夫
取締役	藤本 正義	監査役	皆木 武久
取締役	藪下 啓二	監査役	森野 實彦
取締役	西川 義明	監査役	辻 弘*
取締役	森野 禎之		

※は会社法 第2条 第16号に定める
社外監査役です。

株主分布状況



株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
 定時株主総会 6月に開催
 剰余金の配当の基準日 3月31日、9月30日
 1単元の株式数 100株
 公告掲載方法 電子公告によって行います。

<http://www.towayakuhin.co.jp/ir/koukoku.html>

但し、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

株主名簿管理人ならびに特別口座の口座管理機関
 東京都千代田区丸の内1丁目4番5号
 三菱UFJ信託銀行株式会社

同事務取扱場所
 〒541-8502
 (お問い合わせ先) 大阪市中央区伏見町3丁目6番3号
 三菱UFJ信託銀行株式会社
 大阪証券代行部
 電話:0120-094-777(通話料無料)

◎住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について

口座を開設されている証券会社等にお申出ください。なお、特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行株式会社にお問い合わせください。

◎未払配当金の支払について

株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行株式会社にお申し付けください。

◎見通しに関する注意事項

当報告書の記載内容のうち、歴史的事実でないものは将来に関する見通し及び計画に基づいた将来予測です。これらの将来予測には、リスクや不確定な要素などの要因が含まれており、実際の成果や業績などは記載の見通しとは異なる場合がございます。

営業・販売拠点のご紹介

当社は「東和式直販体制」の確立を目指し、営業所の新設や移転による販売流通網の整備を進め、現在、代理店70カ所・営業所57カ所を拠点に、営業・販売活動を行っています(平成25年9月30日時点)。

